

課題

- 府内の小中学校ともに、不読率が全国平均を上回っている。
- 小中学校ともに言語能力・情報活用能力の育成が必要。
- 学校図書館の環境整備・授業での活用が進んでいない。



事業のねらい

学校図書館を活用した授業を行うことで、情報活用能力・言語能力の育成を図る。事業実施校には、学校図書館活用に造詣の深いスーパーバイザーを派遣し、授業づくりや環境整備に向けた指導助言を行うとともに、事業実施校の取組みを広く普及させ、府域の学校図書館の機能の充実をめざす。



取組実施地域・学校の指定

豊能町、吹田市、高槻市、茨木市
守口市、大東市、東大阪市、八尾市
松原市、羽曳野市、藤井寺市、和泉市
高石市、岸和田市、泉佐野市

【15市町】
小学校13校 中学校6校

実施内容

【大阪府の取組】

- 大阪府独自の情報活用能力体系表の作成
- 事業実施校に担当教員を配置
- 事業実施校へスーパーバイザーを派遣
- 事業実施校への指導助言

【市町村の取組】

- 事業実施校の選定・成果普及計画等の設定
- 事業実施校の進捗管理及び訪問支援
- 事業実施校の公開授業及び校内研修支援

【事業実施校の取組】

- 言語能力・情報活用能力の育成に向けた学校図書館を活用した授業実践
- 公開授業、校内研究の推進
- 学校図書館を活用した実践事例の作成

【研究成果の周知】

- 協力校への学校公開参加者 1164名
- フォーラムでの分科会の実施
- 事業実施校の取組を府教育庁HPにWEBアップ



事業実施校の実践を参考に学校図書館を活用した授業づくりを府域内へ広く普及・発信
フォーラム参加 200名

成果

【児童生徒アンケート】 (小・中学校)

	令和6年 5月(%)	令和6年 12月(%)
ふだん、1日に教科書以外の本を全く読まない(本には、漫画や雑誌を含む)	29.6	25.3
わからないことや知りたいことがあったとき、図書館資料やインターネットなどで調べている。	70.9	79.1
図書館資料やインターネットなどで調べたことをもとに、自分の考えをまとめて書いたり、話したりしている。	59.6	67.4

【令和6年度学校図書館活用授業単元数】
合計 小学校 261事例 中学校 103事例
(令和7年2月時点)

○学校図書館活用授業の実践事例を府域へ発信、さまざまな教科等で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語能力を育成する授業づくりを普及。



【取組み成果リーフレット】
合計 小学校 34事例 中学校 18事例
(令和7年2月時点)

○事業実施校の年間を通じた特徴的な取組をまとめたものとしてを作成し、その成果を域内に普及・発信。



課題

○小学校から中学校に進むに従い、読書離れが顕著になっており、小学生期の読書習慣の定着が課題

○本県は図書館設置率が全国平均より低く、読書環境の面においてこどもが読書活動を行う上での課題



事業のねらい

(1) 小学校の給食時間での朗読放送や通学合宿・児童館でのよみきかせ及び関連図書の設置を実施することで読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(2) 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもに対して本を介したコミュニケーションを取り、小学校低学年及び中学年における読書習慣の形成を試み、効果の測定を行う。

(3) 上記の取組に対し県が設置する企画運営委員会内での助言や、県立図書館からの図書貸出及び講師派遣などの支援を行うことで、人材や蔵書量に課題を抱える自治体での取組の参考になるよう検討を行う。

実施内容

① ボランティアによるよみきかせの取組 (かつらぎ町へ再委託)



【主な対象】
かつらぎ町内の小学校 (5校)
通学合宿参加児童 等

【取組内容】
小学校の給食時間での朗読の放送や、通学合宿、児童館でのよみきかせにより、こどもたちの読書への興味を誘った。同時に朗読図書を含む関連図書を学校へ貸し出し、読書につなげた。また、紙芝居講座やPOP作り講座を通して人材の育成を図った。

② 学童保育所や登校に不安を抱えるこどもへの取組 (那智勝浦町へ再委託)

【対象】
那智勝浦町内の学童保育所5か所
(小学校1～4年生約50名)
登校に不安を抱えるこども
で青少年センターの学習指導に通う児童・生徒12名



【取組内容】
個々の興味関心を聞き取り、書籍・電子書籍の紹介や読み聞かせを行うことでコミュニケーションを図り、読書を促した。

③ 取組への助言や図書貸出の支援 (和歌山県が実施)

上記、2町での再委託事業に対する助言や講師の派遣を行った。不足する図書についても県立図書館から貸出を行った。

成果・課題

【成果】
(ボランティアによるよみきかせの取組)
朗読放送の実施後や通学合宿時に図書を手に取る児童が多く見られたことから、読書のきっかけづくりとして一定の効果が確認できた。

(学童保育所での取組)
低学年のこどもも楽しめるよう選書を工夫し、よみきかせも併せて行うことで読書への興味を持たせた。友人同士で読書を楽しむ姿も見られた。

(登校に不安を抱えるこどもへの取組)
学校司書が選書に関わり、こどもや保護者の興味を引く図書を貸出することで、図書がこどもと大人(保護者や支援員)のコミュニケーションの一助となった。

【課題】
(ボランティアによるよみきかせの取組)
黙食の状況が緩和され、朗読やよみきかせを集中して聴くことが難しくなったため、選書や活動時間を検討する必要がある。

(学童保育所での取組)
電子書籍の紹介の際は、操作を体験することがこどもたちの目的となり、落ち着いて読書を行う環境づくりが困難であった。読書に興味を持つきっかけとしては有効であるため、活用方法を検討する必要がある。

課題

- 全国平均と比べ、
- ①子どもの不読率が高い
 - ②読書好きな子どもの割合が低い



事業のねらい

地域の図書館や地域人材の力を活用して、地域と学校が連携しながら、子どもが本に向きあう機会づくりにつながる事業をモデル実施し、子どもの読書への興味・関心を高める足がかりとする



取組実施地域の指定

多可町
(人口18,891人、R6年4月)



小学校数 5校
中学校数 3校

実施内容

①企画運営委員会の設置



委員会を通じて多くの助言が得られ、事業の効果的な実施に向けた検討や、成果や課題の有効な検証の場となった。

②発達段階に応じた、不読率低減の取組（再委託）



○町立図書館の取組
学校園等へのお出張おはなし会（おはなしサークル「あいあい」による読み聞かせ会）の実施



○学校の取組
・小学生を対象とした、電子書籍読み放題サービスの活用
・学校司書及び学校図書館アドバイザーを活用した、学校図書館の環境整備

③ひょうご子ども読書活動推進フォーラムの実施

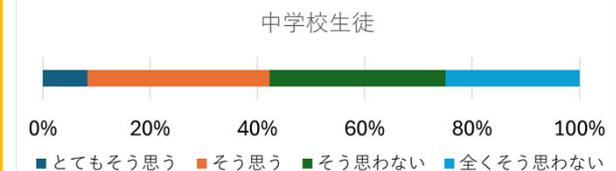


・担当者向け研修会とビブリオバトル兵庫県大会を共催
・ショート動画を活用した書籍紹介の第一人者、けんご氏を招聘

成果

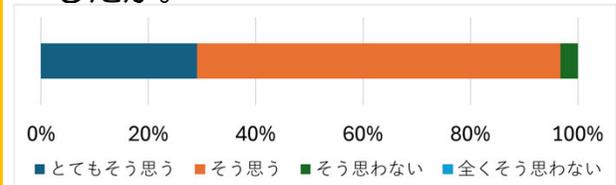
○多可町読書活動推進事業

昨年度と比較して、読書への興味は深まりましたか。



○読書活動推進フォーラム

研修会前と比較して、学校図書館等の活用について理解が深まりましたか。



○平日全く読書しない児童生徒

多可町調べ	R元年度	R6年度
小学校	21.4%	11.5%
中学校	28.8%	37.6%

課題

- 学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか
・「全くない」と回答した児童生徒の割合
小学校28.8%、中学校43.9%
- 学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか
・「ほとんど、または、全く行かない」と回答した児童生徒の割合
小学校46.6%、中学校69.3%



令和5年度全国
学力・学習状況調査より

事業のねらい

- 学校図書館の各種センター機能を生かした取組を普及させることで、児童生徒の読書習慣の形成及び読書活動の推進につなげる。
- 児童生徒に読書習慣や情報活用能力を身に付けさせるために、魅力ある学校図書館の図書整備体制や読書環境整備体制を構築する。



取組実施地域・ 学校の指定

川西町（川西町立川西小学校）

- 町内児童生徒の不読率
小学校41.4%
中学校35.5%
- 読書が好きな児童生徒の割合
小学校65.5%
中学校72.1%



実施内容

①指定校での実践



図書館司書、教員、ボランティア、児童等による読み聞かせの充実



読書通帳や「推し本」の木による読書意欲の向上



読書感想文・紹介文作成による読書習慣の形成

②学校図書館担当者協議会

- ・優秀実践校からの実践発表
- ・グループ協議での情報共有

オンライン配信（参加者 46名）

オンライン図書室ツアーにより具体的な取組内容を詳細に説明



③子ども読書活動推進啓発チラシ

学校だけでなく家庭等での読書活動も啓発するため、就学前の子どもをもつ保護者等を対象に配布



④子ども読書活動推進フォーラム

- ・指定地域による実践発表
- ・学識経験者による講演

県教育研究所への参集及びオンライン配信のハイブリット開催（参加者 72名）



学校関係者だけでなく、子どもの読書活動に関心のある方も参加

成果

○指定校における成果

- ・読書がとても好きと回答した児童の割合が、全6学年中4学年において増加

	事業実施前	事業実施後	比較
第1学年	40.0%	61.9%	+21.9
第2学年	67.7%	32.8%	-34.9
第3学年	44.0%	50.0%	+6.0
第4学年	21.9%	35.8%	+13.9
第5学年	25.0%	17.2%	-7.8
第6学年	15.6%	20.3%	+4.7

- ・学校図書館における貸出冊数が前年比120%の増加

	2023年	2024年
貸出冊数(4~12月)	13519冊	16261冊

○学校図書館関係者等への周知

- ・さまざまな取組を行っている学校からの実践発表や、参加者によるグループ協議により、司書教諭及び学校司書をはじめとする学校図書館担当者の資質向上を図った。

(参加者の研修内容満足度：100%)

- ・奈良県子ども読書活動推進フォーラムにおいて、研究指定地域の取組をもとに、子どもの読書活動の重要性や家庭・学校・地域の連携による読書週間の形成について協議することにより、子どもの読書活動の推進に向けた雰囲気醸成を図った。

(参加者の研修内容満足度：100%)

課題

○学校図書館としての「情報センター」「学習センター」機能充実を図るための図書資料の整備及び刊行後時間の経過とともに最新の情報を記載していない古い図書が保有されている状況にあり、計画的に整備が進んでいない。

○学校司書においては、各市町村により違いがあるが、1人で複数校を巡回していることが多い。



事業のねらい

○学校司書及び学校図書館担当教員等を対象とした研修を実施することで資質・能力の向上を図るとともに、これから求められる学校図書館の在り方を考えることによって、図書の整備状況の点検・更新等を進める。

○「主体的・対話的で深い学び」を効果的に進める基盤としての役割を担う学校図書館の在り方や、学校司書の有用性等を県内に広く普及する。



取組実施地域・学校の指定

推進校 日進中学校

連携校 宮小学校

(令和3年度子供の読書活動優秀実践校)

三田小学校

太田小学校

(令和2年度子供の読書活動優秀実践校)

宮北小学校

実施内容

①学校図書館担当教員研修の実施

和歌山市内の全小中学校の図書館担当教員を対象に、学校図書館の整備や児童生徒の情報活用能力の育成に係る学校図書館資料の効果的な活用等の実践発表の場として、昨年度の取組を紹介した。学校司書等の資質・能力の向上を図り、学校図書館の環境整備と機能の強化を促進した。



②学校図書館機能強化のための研修会の実施



学校司書及び学校図書館担当教員等を対象に、これからの学校図書館の在り方について情報の共有を図った。学校図書館の「学習センター」機能に焦点を当てた研修を行い、図書館資料の整備と利活用を促進した。

③学校図書館機能を活用した研究授業・協議会の実施

児童生徒の実態を把握するためにアンケートを作成し、実施した。また、学校図書館や学校図書館資料を活用することが授業改善につながることを再確認し、意識の向上に繋げた。さらに、日進中学校と太田小学校において、学校図書館資料の活用に向けた家庭科と国語科の研究授業・協議会を行い、モデルケースの検討を行った。



成果

○学校図書館の取組の普及



こどもたちに興味関心や問いを持たせるための資料提供の仕方や情報の関連付け等、『資料提供が鍵となる』ということを学んだ。

○学校図書館を活用した授業改善

学校司書との連携した授業を実施し、学校図書館機能の活用やねらいに沿った取組ができたかについて、アンケートを通して検証できた。



- ・「学校の図書館へ行くのは好きですか」

	7月	→	1月
そう思う	35%	→	95%
まあそう思う	23%	→	5%

- ・「目次や索引の使い方を知っていますか」

	7月	→	1月
そう思う	54%	→	86%
まあそう思う	42%	→	14%

(太田小学校6年生アンケートより)

○課題

- ・研究授業や学校司書との連携の実践を広めること。
- ・読書が好きな児童生徒及び学校図書館の有用性について検証を行うために、より多くのデータの収集を行うこと。
- ・取組の普及を継続して行うこと。

課題

- 図書環境に恵まれ、読書活動や調べ学習などで、図書に触れる機会が少ないわけではないが、読書に親しんでいる児童は限られている。
- じっくり考えるのが難しい児童が多い。また、知識が乏しいため、根拠をもって考えることができない児童もいる。

事業のねらい

- 授業における学校図書館の活用機会を増やし、図書資料を使った学習を取り入れる。
- 児童が本に親しむ環境を作る。
- 学校司書と教師の校内連携を充実させる。
- あらゆる機会を生かして、読書活動へ誘う。

取組実施地域・学校の指定

近江八幡市立桐原小学校



実施内容

①学校図書館の機能を活用した校内研究



校内研究において、様々な教科で、学校図書館の機能を生かした授業づくりについて全学年で検討し、実践した。

②読書活動を活性化するための取組



先生のおすすめ本を紹介する取組等、人から薦めてもらうことによって、読書の幅を広げたり、違うジャンルを読んだりするきっかけになるようにした。

③学校司書との連携の強化



担任と学校司書が協力し、授業や読書活動の場面で児童の身の回りに、より多くの図書がある環境を作った。

④新しいことへの挑戦



職員研修でのビブリオバトル、OJT、市立図書館との連携、ボランティアによるストーリーテリング等、学校全体で読書に重点を置いて様々なことに取り組んだ。

成果

○授業内容の充実

目的ではなく、手段としての学校図書館の活用や、本を活用した授業づくりのバリエーションが増えた。



並行読書や、調べ学習を中心に、図書を活用した授業を展開

○学校司書との連携の充実

授業に必要な図書資料の収集・配置が、子どもの豊かな学びにつながった。



学校司書は、授業の事前準備はもちろん、時にはT2として、授業に参加して子どもの学びをサポート

○身近に本がある環境

学習や行事等に関連する図書がいつでも手の届くところにあることで、読書の機会が増えた。



約7割の児童が、日常的に本を読んでいるブックステーション

【アンケート】事業の取組前と比較して…

質問内容	肯定的回答
読書への興味が深まった(児童)	83.7%
学校図書館の活用について理解が深まった(教職員)	96.5%

課題

- 学校教育全体で学校図書館を効果的に活用できていない。
- 生徒は読書への関心はあるものの継続して読み続けることができていない。



事業のねらい

- 学校図書館の機能を活用し、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- 生徒の読書への興味関心を高めるため、生徒を取り巻く読書環境を整える。



取組実施地域・学校の指定

近江八幡市立八幡東中学校



実施内容

①「全校ビブリオバトル」の実施



ビブリオバトルを全校で行うことで、学校全体として読書に対する関心・意欲を高めることができた。

②図書委員会による取組



給食時に、図書委員の生徒が教職員等におすすめの本をインタビューする番組や、朝読書の呼びかけ等を全校放送で行った。

③学校司書の活用



学校司書が中心となり、生徒の下校時、昇降口前で本の貸し出しを行う出張学校図書館や古本市場の開催等を行った。

④地域人材の活用



地域ボランティアを活用し、学校図書館の整備や飾りつけ、朝読書時の読み聞かせ、学校図書館開館時の見守り等を行った。

成果

○ビブリオバトルを通しての読書への興味関心の変化

【ビブリオバトル実施後アンケート】

質問内容		割合
ビブリオバトルのために読んだ本の冊数	1冊	45.4%
	2冊	27.4%
	3冊	15.9%
	4冊以上	11.3%
本を読もうとする思いが強くなった		86.6%
読んでみたい本が見つかった		100%
学校図書館に行こうとする思いが強くなった		57.3%

多くの生徒が読書への興味関心を高めた。

○事業を通しての読書状況の変化

【子どもの読書活動に関する調査】

質問内容	5月	11月
1か月間に1冊以上本を読む生徒の割合(%)	96.6	98.1
1か月の平均読書冊数	2.8	3.8
学校の授業以外で平日1日あたり10分以上読書をする生徒の割合(%)	38.0	38.6

特に、1か月の平均読書冊数が大きく増えた。

課題

- ・すべての附属学校が、学校図書館を活用し、今日的な課題を扱った授業を実践する。
- ・学校司書のための研修プログラムの企画・実施・効果の検証
- ・「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」の改良と普及
- ・文科省報告会の実施

事業のねらい

- ・学校図書館図書の購入促進のために、どのような資料が、授業に役立つかを示すことがねらい。併せて、学校図書館を活用した授業の具体例を示すことで、学校図書館の活用への理解を深める。
- ・研修においては、図書の選定に役立つサイトの提案と、探究的な学習における読書の意味について学ぶ。
- ・データベースの普及と事業報告会を実施することで、学校図書館の授業活用への理解を広める。

実施内容

①文科省事業報告会にて3校が授業実践を発表

- ・附属世田谷小学校：「研究活動を支える汎用的スキル育成を行う学校図書館」
- ・附属竹早中学校：「対話と協働を生む図書館利活用」
- ・附属高校：「18歳成人における金融教育」

教員・児童生徒へのアンケートの実施

- ・附属学校全教員を対象 現状、教員がどのように利用しているのか、今後学校図書館にどのような役割を期待しているかを言語化及び数値化
- ・附属学校児童生徒対象（小4以上） 楽しい読書体験の有無と本で調べることの相関関係や、図書館での授業の意義に関して質問

②研修（対面とオンラインでの実施）7/29 9/7

- ・教科の単元に即した資料を購入するために役立つBookReach開発者を招き、実際にブックリストを作成
- ・探究学習を学びの中心に位置付けている軽井沢風越学園の司書教諭・国語科教諭に講師依頼

③データベースの普及

- ・令和5年度から引き続き、改良、他団体（BookReach Idig Edu）と連携し、更なる発信を行う



成果

授業実践&報告会

- ・データベースへ附属学校の授業実践を10事例アップ・報告会の参加者からは、「3つの異なる校種の発表が今後の図書館運営に役立つ」との感想が多く寄せられた。また、鼎談も含め、学校図書館への理解を深めることができたと回答
- ・当日申込約150名、見逃し配信約100名

アンケートから見える図書館活用

- ・よく使う教員は、全ての教科に存在。リサーチのサポートを今後期待
- ・紙とデジタルを併用しての学校図書館での授業を約8割の生徒が肯定

研修

- ・学校司書が実際に使ってみることでBookReachの改良に貢献できた（参加者20名）・学校全体の中に図書館が位置づいている軽井沢風越学園の実践から得るものが多かった（参加者80名）

データベースの改良と普及

- ・令和6年度のアクセス数が、飛躍的に伸びた。これはスマートフォンでもPCと同様の画面で見られるようになったためと思われる。
- 令和5年度年間アクセス数 172, 823
令和6年度年間アクセス数 837, 231

課題

- ★学校図書館の機能、司書教諭・学校司書の果たす役割を全ての教育関係者が理解していなければならない。
- 学校図書館についての説明資料の要望が高まっている。
 - ・校長=学校図書館長向け
 - ・教職員向け
 - ・司書教諭の役割と立場
 - ・学校司書の役割と立場 など
- 本来、説明資料は、教育委員会で作成されるべきであるが、全国的にはまだ少なく、内容も限定されていることが多い。

事業のねらい

- 校長や司書教諭、学校司書を指導する教育委員会の学校図書館担当指導主事が、学校図書館の機能等について理解を深めることが必要
→「校長向け」「教職員向け」説明資料作成
- * 指導主事
自分の認識を確認できる教育委員会内説明の資料等に活用
- * 司書教諭・学校司書
校長や教職員への説明資料
ICT担当教員との協働のための説明資料等に活用

実施内容

- ①文部科学省指導主事会議（2024. 2-5オンデマンド配信）の事前アンケート結果の再検討・考察
- ②8月：第44回全国学校図書館研究大会（高松大会）において、分科会「学校図書館を授業で使うには？教科・校種様々な事例から考える」で発表。
- ③11月：学校図書館担当指導主事研修会開催
 - ・オンライン
 - ・「校長向け」「教職員向け」2種のパンフレット案を説明し、意見交換。



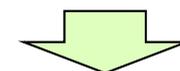
- ④「校長向け」「教職員向け」2種類のパンフレット作成
 - ・11月の研修会の意見等を踏まえ2種類作成
 - ・都道府県SLA62組織、教育委員会等にパンフレットを配付
 - ・全国SLAのWEBサイトに掲載

成果

- ・AIと生きる時代、全ての土台は言語力・読解力
- ・学校図書館には「人」の力が必要
- ・学校図書館を多様な教科で活用する



- 校長向け資料
校長のリーダーシップがカギ！
学校図書館活用で学びの充実を
- 教職員向け資料
豊かな授業づくりに学校図書館を！



- ・都道府県SLAへの配付
- ・全国SLAのWEBサイトからDL可
- ・機関誌『学校図書館』『学校図書館速報版』メールマガジン等で広報